

本学開学50周年記念事業国際交流イベント 「IFE in SENDAI」 (International Friendship Event) を開催



すべての演技が終了し、出演者全員での記念撮影

本学は今年度開学50周年を迎え、そのメインの記念事業として、本学と国際交流提携を締結している11か国18大学・1研究機関から学長・学部長クラスの先生方と学生約160名を招き、10月31日～11月2日の3日間にわたり国際交流イベントIFE in SENDAI (International Friendship Event) を開催しました。

10月31日(火)には、大学において、午前10時から、歓迎挨拶と参加者紹介の後、LC棟前で国際交流提携大学との交流開始年を石碑に刻んだ記念プレートのお披露目があり各大学全員が立会い見守るなか除幕式が行われました。その後、海外ゲスト全員で2011年東日本大震災の仙台市の被災状況を記録したビデオを視聴するとともに本学の施設を見学しました。午後は、学生達は、IFE会場であるゼビオアリーナでリハーサルを実施するとともに、終了後、名取のサッポロビール園で交流夕食会を行う一方、各機関の代表者の方々は、大学地元にある旧家で日本文化交流を体験し、本学とのかかわりに関しスピーチをいただきました。

11月1日(水)には、午後1時からゼビオアリーナ仙台を会場に、メインイベントであるIFEが開催され、弓田講師およびマンキン事業戦略室コーディネーターの英語による司会進行により、各国の伝統ある素晴らしい民族舞踊や演武が披露されるとともに、本学も体操・新体操演技や日本武道を紹介し、各大学それぞれ威信をかけた競演を学生らしいパフォーマンスで示し、来賓や一般市民の方々、近隣の小・中学生、保護者、本学学生と明成高等学校生徒ら合わせ、約3,000名が魅了されました。
(次ページに続く)

〈目 次〉

開学50周年記念事業 「IFE in SENDAI」を開催	1-3
マスコットキャラクターの愛称が 「Wolfie」(ウルフィー)に決定	3
・馬場皐輔投手 阪神タイガースから ドラフト1位指名を獲得 ・開学50周年記念 「2017東北こども博」が開催されました	4
・「野外教育指導者育成プログラム」の修了式 が行われました	5

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

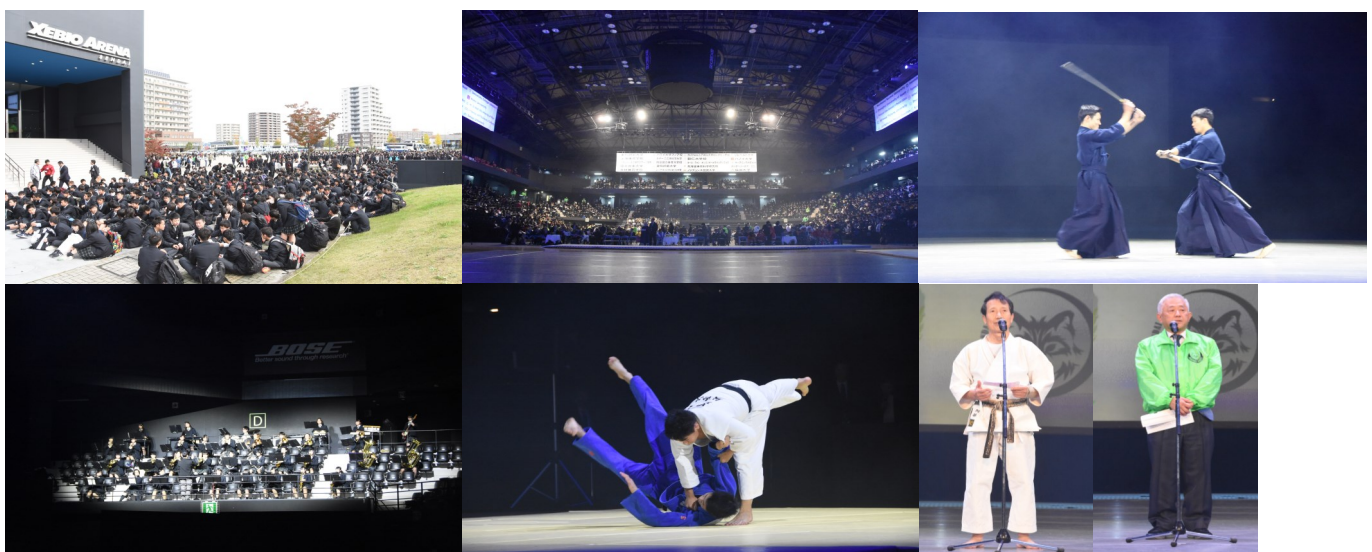
Email kouhou@sendai-u.ac.jp



(左上から時計回りに) 除幕式後の記念写真、IFE in 仙台の会場となったゼビオアリーナ仙台、被災した荒浜小学校の見学、地元旧家での集合写真

また、各大学の演技の合間には、50周年記念シンボルマークおよびマスコット・キャラクターを創作した台東大学から本学への留学経験を有する余亭儀さんに対しての感謝状が贈呈され、梁教授に代理授与いただきました。140年近い歴史を貫く「実学と創意工夫」という建学の精神を体現した「根付」を制作者であるご高齢の明成高校卒業生から贈呈、現役明成高生徒による和太鼓・ブラスバンド演奏の披露など、学校法人挙げてのイベントで盛り上がりしました。終了後は、ゼビオアリーナに設置されたウェルカムパーティー会場で、白坂広子・牧人両氏による同じく英語による司会により、朴上海体育学院教授の乾杯の後、大学毎のテーブルを囲み、国際交流の楽しい輪を広げました。

11月2日(木)には、記録ビデオで紹介した震災遺構である仙台市立荒浜小学校を見学し、参加各大学の全学生を中心に震災から6年7ヵ月経過した荒浜地区の被災状況と復興の景色を目に焼き付けていました。2011年の東日本大震災の際には国際交流提携大学からも多大なるご支援を賜りました。今回の見学では各大学の皆様に東北の復興の今を直接肌で感じていただける機会ともなりました。仙台大学は、この国際交流行事実施を機に、海外の提携大学等とさらなる交流をはかり、なお一層、国際的に活躍する人材育成にも寄与して参ります。参加された、海外各機関の方々のもとより、本学および学外関係者の方々に対して、ご協力に厚く感謝申し上げます。



(左上から時計回りに) 開場を待つ明成高校の生徒たち、満員となった会場の様子、オープニングを飾った剣道の形、開会の挨拶を英語で行う朴澤理事長・学事顧問と阿部学長、本学学生による柔道の演武、明成高校のブラスバンド演奏



(左上から時計回りに) 瀋陽師範大学、ペラルーシ国立体育・スポーツ学院、ハワイ大学マノア校、台東大学、
カヤーニ応用科学大学、上海体育学院、韓国国立体育大学校、ホーチミン市体育大学、
シーナカリンウィロート大学、龍仁大学校、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校、吉林体育学院、
リレベルト大学、青海省体育科学研究所、ノアフェンス国民大学、ハノイ大学、
カール・フォン・オシエツキー大学オルデンプルグ、東北師範大学、カンタベリー大学CGEL、ペラルーシ国立体育・スポーツ学院

マスコットキャラクターの愛称がWolfie(ウルフイー)に決定しまし

本学の開学50周年に合わせ、本学に留学経験がある余亭儀さん（台湾・台東大学卒）作製のオオカミをモチーフとした3つのマスコットキャラクターの愛称が「Wolfie」（ウルフイー）に決定しました。

愛称は「2017東北こども博」で募集し、多数ご寄せられた愛称の中から秋田県湯沢市の松田様にご応募いただいた愛称に決定されたものです。

マスコットキャラクター（「Wolfie」）は今後末永く使用されるものですので、よろしくお願いいたします。



硬式野球部の馬場皐輔投手 阪神タイガースからドラフト「1位」指名獲得

10月26日におこなわれた「2017プロ野球ドラフト会議」において、本学硬式野球部の馬場皐輔投手（体育学科4年一宮城・仙台育英学園高校出身）が福岡ソフトバンクホークスとの競合の末、交渉権を獲得した阪神タイガースより1位指名を獲得しました。

1位指名獲得後の記者会見で馬場投手は「1年目から自分の長所を生かし、長くプレーできる選手になりたい」と抱負を語りました。記者会見後には会見場の外で待ちわびた約80名の硬式野球部員から阪神タイガースの応援歌である「六甲おろし」の大合唱に迎えられ、祝福の胴上げも行われました。

翌日の27日には早速、阪神タイガースの葛西スカウトら3名が本学を訪れ、馬場投手への指名あいさつが行われ、ドラフト会議当日に金本知憲監督が引き当てた「交渉権獲得」が印字された用紙が手渡されました。本学からのプロ野球選手誕生は2015年の熊原健人投手（横浜DeNAベイスターズ）に続き2人目です。



本学開学50周年記念「2017東北こども博」開催

10月7日（土）8日（日）の2日間、仙台大学開学50周年記念「2017東北こども博」（主催：東北こども博実行委員会、後援：文部科学省／宮城県など）が本学を会場として開催され、2日間で約16,300人の方々にご来場いただきました。

「東北こども博」は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援の一環として「被災地の子どもたちに元気を」を合言葉に始まり、今回で7回目の開催となりました。今年も、子どもたちに、遊んで、からだを動かし、元気になってもらおうと全国の玩具メーカーや地元企業が協賛くださいました。ウルトラマンオーブやシルバニアファミリーなどの人気キャラクターによるステージショー、サッカーや野球などの競技に挑戦できる「ちびっこスポーツ広場」、グルメ屋台などが並ぶ「お祭り広場」や「復興市場」（女川のホタテ焼き・亘理のいち氷などが出店）など多彩な催しが行なわれ、各会場では大人も子どもも夢中になって楽しんでいました。

また、会場内には本学にある6つの学科の特色を生かした体験イベント等も行われ、そのうち、現代武道学科のブースでスポーツチャンバラを体験した小学生は「初めてのスポーツチャンバラでした。大学生が優しく教えてくれたのでとても楽しかったです」と話してくれました。

その他にも、7日には今回の目玉となったベラルーシ新体操ナショナルチームによる演技発表会が行われ、約600人の方々にご来場いただきました。また、8日にはリオデジャネイロオリンピックボート競技日本代表の大元英照選手（本学卒）と2009年ボートU23世界選手権で銀メダルを獲得した西村光生選手によるトークショーや、本学の卒業生が集う「ホームカミングデー」も同時開催されました。なお、ホームカミングデーでは、東日本大震災で挙行できなかった卒業式も行われました。



（上）スポーツチャンバラを体験する小学生
（下）ベラルーシナショナルチーム新体操演技発表会

文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) 「野外教育指導者育成プログラム」の修了式が行われました

9月28日（木）午後、仙台大学「野外教育指導者育成プログラム」の修了式が行われました。このプログラムは、大学等において社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを「職業実践力プログラム（Brush up Program）」と文部科学大臣が認定する制度を利用したものです。社会人等を対象とし、大学の教育・研究資源を活かして編成されたプログラムにより体系的な知識・技術等の習得を目指す制度です。今年度よりスタートした本事業は、「教育」、「野外生活技術」、「リーダーシップ」、「安全管理」、「環境保全」、「事業計画・準備」、「インターンシップ」、「評価」というテーマに沿って、120時間のカリキュラムを実施しました。4月から9月にかけて、国立花山青少年自然の家、宮城県蔵王自然の家、バックカントリークラスルーム、石井スポーツなどの関連団体スタッフから、各団体の実践現場で知識やスキルを教わったり、本学の飯田上級研究アドバイザーや岡田より講義を受けたりして、野外教育指導者としての資質を高めました。受講者は仙台大学職員1名、大学院生1名の計2名でした。2人とも無事に、「履修証明書」が交付されました。以下、受講者の感想です。



修了式での記念撮影、中央が修了生の伊勢さん（叶さんは都合により欠席）

伊勢裕介（仙台大学職員）

仙台大学の皆様のご理解とご協力があつて、野外教育指導者育成プログラム（BP）を無事に修了することができました。ありがとうございました。野外の知識が全くない状態で、プログラムに参加しましたが、飯田先生、岡田先生の指導があり、野外の様々な知識やスキルを身に付けることができました。また、プログラムの中では、インターンシップとして、実際のキャンプに指導者として参加しました。全日程、雨という厳しい環境の中、参加した子供達と様々な課題に挑戦し、野外を通じて子供達の成長した姿を見ることができました。改めて、野外の素晴らしさを実感しました。この経験を自分の立場で、今後は大学または社会に還元できるように、日々精進していきたいと思ひます。

叶 敬偉（仙台大学大学院）

時間が経つのは早く、半年間実施された野外教育指導者養成プログラムを終了し、このたび履修証明書を交付いただきました。お世話になった先生方、本当にありがとうございました。私はもともと自然環境が好きだったことをきっかけに、自然と触れ合う機会の多いこのプログラムへ参加しましたが、そういった触れ合いはもちろん、自分自身の成長とさらなる教育の充実を肌で感じる事ができ、大変勉強になりました。今回の経験を通し、子どもたちの笑顔溢れる素晴らしいプログラムに関しな一層、学んでいきたいと思ひます。

本事業を進めるにあたって、大学内外の多くの関係者にご尽力いただきました。本当にありがとうございました。飯田上級研究アドバイザーを始め、只野室長にもご尽力いただきました。非常に充実したカリキュラムで受講生にとっても有意義なプログラムでしたが、半年という短い期間の中で多くの授業を消化しなければならないスケジュールや、社会人と学生と講師の日程調整の難しさ、参加者確保のための広報など、課題や反省もありました。今後は、今年のプログラムを評価し、持続可能な形を模索している必要があると言えまふ。

【報告：講師 岡田 成弘】